

# “三島 酒と歴史と温泉の旅”

主催：越後長岡まちの駅ネットワーク

開催日：平成23年1月27日(木)



いざ出発！ 前の晩にだいぶ雪が降って心配でしたが、当日はなんとか曇りに…。良かった～  
真冬の寒い中でしたが、一般参加の方も含め18名でのツアーとなりました。



まずは逆谷地域の寛益寺さんへ。「かんにやくじ」と読みます。奈良時代に開基された歴史ある名刹で、上杉謙信公も祈願寺として帰衣したとか。寒い日だったので本堂を暖めて迎えてくださいました。



ご住職の若月さん。お寺の縁起や地域の方々が力を合わせて守ってきた歴史をわかりやすく教えていただきました。中でも、昭和36年の集中豪雨で裏山崩壊により流された須弥壇を地元の方々が救い出したというお話は印象的でした。



仁王尊は南北朝時代に開眼。県指定文化財になっています。力強く躍動感のあるお姿に圧倒されます！



仁王様の“股くぐり”をするとご利益があるとか。みんな何を願ったのかな？ きっと思い思いの願いを胸にくぐったことでしょう。くぐることに集中してお願いするの忘れたりして…



こちらは直江兼続公が奉納した「天神木像」。与板城の搦手に位置する寛益寺は重要な存在だったのでしょうか。このあと、収蔵庫に安置されている四天王像や十二神将像も拝観させていただきました。古いものは平安時代の作とか



次は、中川酒造さんへ。三島のまちの駅の方の紹介で、この日は特別に見学させていただきました。写真は杜氏の吉岡さん。とっても気さくな方で、酒造りの工程をわかりやすく教えてくださいました。



興味深くお話を聞く参加者の皆さん。お米の話、お酒の種類の話、聞いてみて「なるほどお～」ということがたくさんありました。でも実はちょっと目の前の試飲セットが気になります（笑）



醪（もろみ）を発酵させる仕込み用のタンク。酒蔵は、明治20年創業以来「明治蔵」「大正蔵」「昭和蔵」と増築されていて、ここは昭和蔵。昔の高いタンクがずらっと並ぶ姿は圧巻です。



こちらは、主食米の王様「コシヒカリ」の旨味を活かしたお酒など、米の長所を生かした醸造には定評があるそうです。



お待ちかねの試飲タイム。蔵元で味わうお酒は格別です！種類による味の違いを感じながら皆さんに楽しんでいただきました。



近くの稲田に白雁が飛来していたことから「越乃白雁」が代表銘柄に。



最後は、まちの駅にもなっている「花みずき温泉 喜芳」さんに到着。こちらは旬の素材を使った料理と、天然自噴温泉が自慢。東山連峰の雪景色を眺めながら温泉を楽しめます。



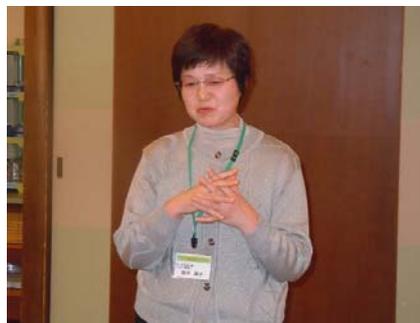
温泉のあとは、名物「みしま殿様鍋」が登場。中川酒造さんの酒かすを使った醤油仕立ての鍋ですが、酒かすが主張し過ぎることなく旨味が凝縮されていてとにかく絶品でした！シメのうどんも美味しくて、ああ思い出したらまた食べたくなったなあ～



「まちの駅 喜芳」駅長でもある支配人の本間さん。この鍋は、江戸時代に地元の庄屋が山形から来た殿様にもてなしたという話に基づく創作料理だそうです。酒かすには悪玉コレステロール減の効果もあるとか！



「清水地蔵の次の駅」高野屋酒店の関さん。駅名は、お店のすぐ近くに地元の方から親しまれるお地蔵さんがあることからとか…お店のある通りには、3つの酒蔵や味噌の醸造元などが立ち並び、どちらも西山連峰から湧き出る美味しい清水を利用しています。



「みしま地酒の駅」すみよし屋酒店の田中さん。お店は脇野町バス停からすぐ。お店オリジナルのお酒「いんごこき」の名前は、頑固者や一徹者を言う越後の方言からとったそうです。



最後は、三島自慢のお酒と料理を味わいながら、まちの駅の方も一般参加の方も一緒になって楽しく交流ができました。皆さんからはたっぷりの三島とまちの駅めぐりを楽しんでいたいて、「楽しかった」「こういうツアーにまた参加したい」という感想をいただいて大変励みになりました！ありがとうございました。

